


I 新しい時代に向けた本県教育の方向性

- ・大きな社会の変革や「Society5.0 時代」の到来
- ・急変する社会を生き抜いていくことができる力の育成

 ICTの積極的活用

- 地理的制約を超えた多様かつ質の高い学びの機会の実現
- 持続可能な社会の形成に参画する生徒の育成
- 将来の地域社会を牽引する担い手の育成
- 能力や適性等のニーズに応じた、多様な学びが実現できる環境の整備
- 社会的・職業的自立に向けたキャリア教育の充実

→ 学びにおける縦の連携（小・中→高校→高等教育）の充実

II これからの高等学校教育の在り方

(1) 本県のこれからを見据えた教育推進の方向性

- 本県のカリキュラム研究開発・実践推進校等は、本県教育の質の向上を牽引
- 地域の人材育成に向け、スクール・ミッションを再定義
- 地元市町村からの支援等により、高校教育が充実されることが期待

(2) これからの県立高等学校整備の考え方

- 高等学校の質の確保から「望ましい学校規模」の考え方は必要
- 地域の人材育成の核としての高等学校の位置づけから、学校の統廃合は慎重に検討することが必要
- 学科は、人口動態や産業構造、文化的・地理的要因等を考慮して、特色・魅力ある様々な学びをバランス良く配置

(3) 多様な学習ニーズに応じた取組の推進方策

- インクルーシブ教育の理念等も踏まえた定時制・通信制の高等学校教育の推進
- 関係機関との連携を深め、ICTの効果的な利活用等で個別最適な学習を充実

III 今後の義務教育段階以降の特別支援教育の在り方

(1) 知的障がい特別支援学校高等部における職業教育の充実について

- 地域を支える担い手として、地域連携による人材育成、職業教育を充実
- 職業コース・職業学科や高等特別支援学校等の設置などを研究することが必要

(2) 高等学校における特別支援教育の充実について

- 校内支援体制の拡充、研修の機会の確保を期待
- 将来に向けた新たな学びの場の整備の在り方を検討することが必要